

2019 年 度  
事 業 報 告 書

社会福祉法人 福 陽 会

特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル  
短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

事業報告目次

項 目	ページ
事業報告	
1. 事業報告(総括)	1-2
2. 職員構成	2
3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書	3-4
4. 処遇報告	4-6
1) 2F 事業報告・活動報告	
2) 3F 事業報告・活動報告	
3) 4F 事業報告・活動報告	
4) 移動理美容	
5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告	
5. 厨房事業報告	7-8
6. 医務室利用者健康管理報告	9-11
7. リハビリテーション報告	12
8. 生活相談員・介護支援専門員	13-14
9. クラブ活動実績報告	15-17
10. 年間行事実施報告	18
11. 事務費・固定資産物品報告	18
12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告	19
13. 職員研修報告	20
14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告	21
15. 消防訓練実施結果	21
16. ショートステイ事業報告	22

## 1. 事業報告（総括）

### 1. 中長期経営計画

(1) 福陽会の基本理念を毎朝唱和する事で、全職員が基本理念を基本としたサービス提供に努めた。利用者様を始め、ご家族様、地域の皆様と共に大きな家族として「こころある介護」を行うことができた。

#### (2) 中期基本方針

①利用者様、ご家族様、地域の方々から評価して頂けるサービス提供ができるよう、他部署で連携を取り、各部署風通しの良い関係性が構築できた。「こころある介護」を提供する事で、利用者様の笑顔も多く引き出す事ができた。

②2019年度は退職者が多くいたが、新戦力も加わり、新たな体制構築の為「報告」「連絡」「相談」を密に行い、業務改善等、施設全体で協力していける体制を作ることができた。

③内部研修ではグループワークを取り入れ、皆で考える研修も行った。研修内容も検討し、次年度に向け、利用者様が毎日どのような気持ちで日々を過ごしているかを知る為に体験型研修実施準備を行った。

④業務検討委員会にて毎月の稼働率の報告を行い、各部署の所属長が経営に対する意識を持ち業務を行う事ができた。

### 2. 基本目標

福陽会の基本理念については、毎日基本理念の唱和を行うと共に、理事長、統括施設長、施設顧問医師、副理事長に来園頂き、都度相談を行い、職員に対し理念、法人としての考えを伝えて頂く事で福陽会の職員としての意識向上を図りました。新入職員については、入職時に統括施設長の思いが書かれた文章から福陽会基本理念について説明を行う事で基本理念の浸透に努めた結果、新人であっても理念に共感でき、それを基としてケアを行う職員が増えている。

### 3. 基本方針について

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理、その他の医療を要する方等について、これらの利用者様が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活が営む事が出来るよう、施設顧問医師指導の下、各部署連携し必要な介護サービスを提供し、地域福祉の増進を図る事を目的として事業を行った。

(1) 利用者様の健康状態、身体状況を充分考慮に入れ、各部署の職員による情報の共有と連絡、相談を密に行い、職員1人1人が利用者様を良く観察し、介助が必要な利用者様が最低限度の援助で快適な生活が送れる為の環境作りに努めた。

(2) 地域社会との交流を深めるため、ボランティアの方々との交流を持ち、また、行事等に地域の方々にお越し頂くことがた。また、社会福祉協議会とも情報交換を行い、地域のニーズ及び利用者家族の動向、希望等を聞き施設運営に反映させることができた。

(3) 利用者様が施設行事に気軽に参加できるよう、地元ボランティアに協力をお願いし、日常生活に変化と季節感が持てるような施設での雰囲気作り、催し物を工夫した。

### 4. 2019年度重点目標について

利用者様に楽しい生活を送って頂けるよう笑顔、心を大切にサービス提供に努めた。2019年度は職員の入れ替わりが多く、体制を見直す良い一年となった。基本を振り返り、職員一人一人が理事長、統括施設長、施設顧問医師、副理事長の思いである基本理念を念頭に業務を行った。

稼働率については、特養が99.00%、ショートステイが63.34%、平均介護度は4.2であった。施設顧問医師、副理事長のご指導の下、特養に関しては目標を達成することができた。ショートステイの稼働については目標には届かなかった。月によって稼働率に変動があり、毎月の業務検討委員会にて稼働について報告するも、具体的な話し合いが行えていなかった為、この反省を次年度に活かしていく。

経営に関して、稼働率に加え、必要な加算を算定する事、職員によるエレベーター使用の制限を行い、こまめな節電を行う事で安定した経営基盤を継続する事ができた。

感染症について、施設顧問医師の指導の下、定期の委員会や臨時の感染症委員会の開催を行い、

適宜対策を検討した。予防対策をしっかり行い、感染症が蔓延する事無く過ごせることができた。新型コロナウイルスという新たな感染症が流行しているが、引き続き感染予防をしっかり行い、感染症が蔓延しないよう努めていく。

看取り介護については、12名の方の看取りをさせて頂いた。施設顧問医師の指導の下、各部署が連携を取り一丸となって取り組み、ご家族様より「第3サンシャインビラに来て良かった」等のお言葉も多く頂けた。

内部研修ではグループワークを取り入れ、職員同士で話し合う事で理解が深まり職員の意識向上に繋がった。また、相手の立場に立った心を大切にしたサービス提供を行う為、次年度より体験型研修を行う準備を行った。

今年度は退職者が多く、職員の入れ替えが多かったが、残った職員が踏ん張り、新たな職員も加わり、各部署が連携する事に対する意識も高まり、新たな体制を構築する事ができた。

今年度は2名新規のボランティアの方に登録をして頂いた。今年度も沢山のボランティアの方々に来て頂き、利用者様が楽しめる機会を多く設ける事ができた。ボランティア交流会については、計画はしていたが新型コロナウイルスの影響により中止となった。交流会は毎年3月の実施を予定しているが、昨年も感染症の影響により中止となった為、今後は開催月の検討も行っていく。地域との交流では日の出幼稚園やあきる野学園の慰問を昨年同様実施し、利用者様に喜んで頂けた。地域のニーズの把握に関しては今年度行う事が出来なかった為、今後、日の出町社会福祉協議会と連携を取って進めていきたい。

## 2. 職員構成 3月31日現在

担当職	職名	職員	非常勤
施設長		1	
顧問医師			1
産業医			1
事務長		1	
事務員		1	2
生活相談員		2(1)	1(1)
介護支援専門員		1(1)	2(1)
介護職員		24	32
医務	医師		3
	看護リーダー	1	
	看護職員	3	1
機能訓練指導員	機能訓練指導員	1	
	P T		1
厨房	管理栄養士	1	
	調理員	4	4
保守管理・宿直	介助員	1	5

\* 兼務職員は主たる職務に記載し、兼務している職務では（ ）内に記載

人件費実績：329,779,115円

福利厚生費実績：1,676,317円

### 3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書

#### 委員会

今季より、会議日を第2木曜日とし開催した。会議日を月に一回開催とした事(必要時は臨時開催)で、勤務の調整もつけやすく、施設顧問医師、副理事長の指導、助言のもと、各部署が連携し委員会活動を円滑に行うことができた。

#### 1) 苦情・拘束委員会

毎月、意見箱の意見や、ご利用者様やご家族様等から直接聞いた苦情に関して話し合い、今後の対応について検討した。委員会で話し合った内容については、職員に周知徹底してきた。身体拘束に関しては、拘束することなく利用者様が安全に生活することができるよう話し合い、拘束は行わなかった。また今までのように話し合うだけではなく、委員会の中でも3か月に1回研修をして、身体拘束について改めて勉強する機会を増やした。その研修を通して、より一層身体拘束について知識を増やして、より良いケアに繋ぐことが出来るように努めた。今後も3か月に1度の研修を継続していきたい。

#### 2) 行事計画委員会

多職種と連携し施設全体でイベントに取り組み実施した。利用者の方に喜ばれる行事を取り入れ、生活の活性化に努めることが出来た。

次年度も多職種と連携、協力し、施設全体で行事を盛り立てていく。

#### 3) 虐待防止委員会

ご利用者様が安心して生活を送って頂ける様、毎月の委員会時に全セクションより虐待報告を行い、情報共有し虐待の早期発見、防止に努めた。

また4か月に一回、虐待の芽アンケートを実施し、職員への虐待防止に対する意識付けや虐待に対する原因や対策について考え、虐待防止に努めた。

#### 4) 事故防止委員会

各部署と連携し、事故原因や対策を考え実行を行った。年2回の内部研修の実施やトラブルに学ぶリスク対策に取り組み、研鑽に努め知識や技術の向上、考える力を身に付けた。

#### 5) 研修委員会

研修の講師はリーダー以外の職員にも務めてもらい、スキルアップ出来るよう取り計らった。

出来るだけ多くの職員が参加出来るよう勤務の調整を行った。

2020年度からは利用者様の気持ちをより理解出来るよう、職員が利用者の立場になって介護を受ける体験型の研修を取り入れていく。

#### 6) 褥瘡予防委員会

褥瘡発生から治癒までの報告、連絡の規定が明確化されていなかったため、情報共有のフローチャートを作成致しました。発生者には褥瘡対策個別計画書を作成し、毎週火曜日に関係部署へ配布することを開始し情報共有に努めました。また、褥瘡リスクアセスメント表の作成により各フロアへ褥瘡リスク者の情報共有を行うとともに、体位変換、摩擦予防の協力を仰ぎました。

#### 7) 感染症委員会

勉強会を通じて、感染予防(スタンダードプリコーション)の知識共有と、その時期に流行する感染症の情報共有を行っていきました。今期、冬からは新型コロナウイルスの世界的蔓延が起こったことで、施設の利用者並びに自身を守るために感染予防策の情報と感染対応についての情報を発信していきました。また、情報を更新するために小まめに朝礼にて感染状況を伝えていくとともに、セルフケアを促すためアルコール消毒の所持などのチェックを行っていきました。

#### 8) 衛生委員会

職員の定期健康診断を実施した。また、産業医の指導のもと労働者の健康管理の維持に努めた。

衛生管理者等による施設内巡回を定期的実施し、職員が仕事しやすい環境整備に努めた。

職員のストレスチェックを実施し、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止した。

#### 9) 業務検討委員会

各部署の所属長が集まり、経営に関する事、各部署から議題を持ちより、意見を出し合い、円滑に業務が行えるように取り組みしました。今季は職員の入れ替えも多く、問題点を検討し、来期に向けて取り組みについての検討も行いました。その中で、施設内での「接遇」を強化していきたいという意見から、「接遇員会」の設立に向けて動き、2020年度より接遇委員会を設立しました。

#### 10) 栄養会議

お食事に関するイベントごとの確認や諸連絡の伝達を実施した。

毎月の体重測定や、採血等の結果、摂取状況について情報の共有を行い、低栄養のリスクがある利用者様のケアについての話し合いを実施し、対応の検討を行った。

#### 11) リーダー会議

月に一度、各ユニットより問題点や相談などを提議し、話し合いを行った。

ユニットの現状や人員配置にも目を向け、各ユニット連携し、ご利用者様へのサービス提供の強化に努めた。また、リーダー同士意見交換なども行いユニットリーダーとしての質の向上にも努めた。

#### 12) ボランティア委員会

ボランティアの新規受け入れや、ボランティアと施設間の連絡調整を行い、利用者様に楽しんで頂ける時間を多く作ることができた。

2019年度は2名の方に新規のボランティア登録をして頂いた。

日の出幼稚園、あきる野学園の慰問も大変好評であった。

「施設の食事を知ろう会」も昨年同様に実施し、施設を知って頂く良い機会となった。

地域交流室の開放についても、日の出町ニュースを語る会や卓球連盟などのサークル活動の場として地域の方々に利用して頂いた。

新型コロナウイルスの影響で、ボランティアの方と施設職員の交流を図る為のボランティア交流会と、3月からのボランティア活動が中止となった。新型コロナウイルスが終息してから、徐々にボランティア活動を再開して行きたい。

## 4. 処 遇 報 告

### 介護部 事業報告

福陽会の基本理念を毎朝唱和する事で職員一人ひとりが基本理念を理解し、業務を行うよう努めた。利用者様一人一人の個性に配慮し、生活のペースを崩さず生活支援を行えるようコミュニケーションを密に行い、利用者様の不安に思っていることや求めていることの把握に努めた。

新型コロナウイルスの影響で外出や面会、クラブ活動などが制限されている為、施設職員で書道やお菓子作りなどのレクリエーションを行い、日々の楽しみを提供できるよう努めた。今後も、身体介護だけでなく、精神的な支援にも力を入れ、心身ともに質の高いサービスを提供できるよう努めていく。

#### 1) 2F 事業報告・活動報告

##### (1) あやめユニット

利用者様一人一人の行動の意味を考えて、利用者様が今何を望んでいるのかを理解できるように職員全体で努めたケアを行えた。声掛け、傾聴を重視してコミュニケーションを密に行い、レクリエーションを積極的に行う事で、以前よりも活気のあるユニット作りができた。

些細な変化であっても利用者様の変化を全員で気にかけて、口頭又は連絡ノートに記入するなどして情報共有を行う事が出来た。

転倒などのアクシデントやヒヤリハットがあった、またはその可能性が高い利用者様は、カンファレンスだけでなく、職員同士で意見交換を行い、再発防止に努めた。

##### (2) さゆりユニット

ショートステイの利用頻度の高い利用者様はもちろんの事ですが、新規利用等で家庭から外出する頻度の少ない方や、不安を抱えた状態で利用を始められるケースも少なくない為、職員の意識変革から始めました。利用者様一人ひとりの個性の把握を行い、家庭ではないけれど安心して過ごして頂ける様に言葉使いやマナーを含めて、丁寧な介護を行う事が出来たのではないかと思います。

年明けよりインフルエンザ、新型コロナと感染症で外出もできず、外部との交流も閉ざされている中で、レクリエーションや体操等を極力毎日行う事で、利用者様の不安軽減に努めています。

テラスのスペースに花を植え、相談員と職員とで、憩いの場を新たに設ける取り組みも行っています。感染症に負けないよう笑顔を引き出せるよう支援を継続して行っていきます。

### (3) さくらユニット

利用者様のその人らしさを尊重し、安心して過ごせるユニットづくりを目指した。

一人ひとりの個性や身体機能を尊重しながら、出来る事はご自分で行って頂き、過剰介護にならないよう残存機能を生かすケアが出来た。

リハビリ体操を毎日行い、身体機能の維持や身体を動かすことの喜びを感じて頂くことができた。

職員の笑顔を絶やさず、ご家族に対しても挨拶をしっかりと行い、利用者様、ご家族共に信頼関係を構築することが出来た。

### (4) みもぎユニット

利用者様の状態や業務に関してユニットミーティングを行い、特に休憩方法の変更や褥瘡の方のケアなどを検討し実行できた。

コロナウィルスの影響で行事や外出レクなどが中止になり、フロア内でできる風船バレーやカラオケ、映画DVD鑑賞などを行い、楽しんで頂けるよう今後も工夫をしていく。

職員間での情報共有、連携を大切にして笑顔で働けるようチームワークを大切に業務に就けるよう努めた。

## 2) 3F 事業報告・活動報告

### (1) すみれユニット

利用者様が安心して生活出来るよう、席の配置や、環境の整備を行い、楽しく過ごせて頂けた。

毎日のリハビリ体操を実施し、身体を動かして頂き、気分転換をして頂いた。

少しの時間を利用したレクリエーションを実施し、利用者様に楽しんでいただけた。

職員同士の情報共有、他職種との連携は不足なく、利用者様に対しての最善のケアを検討する事が出来ていた。利用者様の転倒が多く見られ、見守り、状況把握が不十分に感じられた。職員間で話し合い、対応を再検討することで再発の予防が出来ている。

利用者様と円滑にコミュニケーションを行う事が出来ており、希望や要望の聞き取りを行う事が出来た。誕生日の方には色紙や写真を送ることで喜んで頂く事が出来た。

### (2) つばきユニット

職員が笑顔でケアを行うことと職員同士が連携し何でも話し合える環境を作ることを実施する。実施した結果、笑顔でケアにあたる事が出来、ユニットが明るく、利用者の方が何を望み、快適に過ごせるのかを考え、寄り添うケアを行うことが出来た。まだ不足している面もあるが次年度の課題とし取り組んでいく。

利用者の方がどのような心境なのか、何を求めているのかを個々のニーズに合わせたケアに取り組む。職員の大幅な人事異動があった為、職員間の連携強化と情報の共有に積極的に取り組むようにし、意見の交換の場を大切にもつようにする。隔たりなく意見交換を行うことが出来た。

昼食前にリハビリ体操に取り組み、生活の活性化と残存機能の活用、職員との交流を行うことが出来た。フロアレクに関しては、常時行うことが出来なかったことが反省である。フロアレク、行事を日常に少しでも多く取り入れていくようにする。

利用者1人1人の把握に努めるようにし、関りを多くもつようにした。コミュニケーションを大切にし、コミュニケーションを図りつつ日々の状態の変化にも留意しケアに携わるようにした。

### (3) つつじユニット

利用者様への声掛けを多くするよう心がけ、傾聴を重視し、不安を取り除けるようスタッフ一同努めた。

利用者様一人ひとりのADLの状態把握に努め、些細な変化でもスタッフ間での情報を密に取り、対応した。また、毎日の朝の申し送りやミーティングの際に、個別ケアや変更事項の話し合いをし、検討した。

最近ではコロナの影響で、外出レクやクラブ活動が行なえていない為、スタッフ間で協力し合い、フロアレクの時間を作れるよう調整した。最近では月ごとの書道の飾り付けや、カレンダー作りに力をいれている。

(4) あじさいユニット

利用者様の状態について、朝の申し送りやミーティングの際に職員間で話し合い、その時々合った個別ケアを検討した。

秋に羽村動物園への外出を行なった。フロア内でも楽しい時間を過ごせるよう、書道やピアノ演奏、カラオケ、作品作り等を行い楽しんで頂けるよう努めた。

アロマをたくことで、少しでも利用者様がリラックス出来るよう心掛けた。住環境の整備として、日々フロア内の掃除機掛けを行ったり、換気を行うなどして清々しく過ごせるよう努めた。

3) 4F 事業報告・活動報告

(1) ひまわりユニット

毎朝ミーティングを行い利用者様の訴えや要望に応じて行けたと思います。私達で出来ない事は相談員に伝え家族に繋げて行く事が出来た。

行事で手話を発表し、緊張したが喜んで頂き喜びを感じる事が出来ました。

内部研修に参加し講師を努め発表する事が出来た。介護福祉士の試験にもチャレンジし合格された。自身の目標は達成する事が出来ました。

(2) コスモスユニット

体操を毎日継続することが出来なかった。体を動かす事は大事なので、継続して行きたい。

季節のカレンダー作りを行い、フロアに展示している。毎月変わる事で季節を感じて頂けるように努めた。

研修に参加し介護技術の向上に努めた。

4) 移動理美容

理容が第2・4月曜日の月2回、美容が第1金曜日の月1回来て頂いている。利用者様のご希望によって利用して頂いている。ご家族様、そのご家族様がどの位の頻度で利用されたいか、どの位の長さでカットされたいか等の希望を理容師、美容師に伝え、ご希望に沿うように行えた。

5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告

勘定科目	内容	金額	勘定科目	内容	金額
介護用品費	オムツ	11,082,188	日用品費	トイレットペーパー、ティッシュペーパー	244,327
	タオル	9,828		ブラシ	267,296
				煎茶	187,340
				その他	433,808
	小計	11,092,016		小計	1,132,771
被服費	寝具設備	3,992,235			
	その他	30,808			
	小計	4,023,043			
			合計	16,247,830	

○給食費実績：26,873,943円

○介護用品費実績：11,092,016円

○医薬品費実績：2,233,388円

○日用品費実績：1,132,771円

○被服費実績：4,023,043円

○消耗器具備品費実績：639,616円

○保健衛生費実績：917,548円

○車輛費実績：724,675円

○水道光熱費実績：19,262,547円



## 5. 厨房事業報告

### 《衛生管理・食事提供》

- ・手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。
- ・衛生マニュアルに従った業務、非加熱食材の取扱方法、加熱温度と時間の徹底を行い、安全な食事を利用者様に提供することが出来た。
- ・掃除チェック表を作成し、厨房衛生に対する意識の向上を図った。
- ・フロアラウンドの強化や嗜好調査を行い、利用者様のニーズに応える献立の作成と調理法の工夫を行った。
- ・利用者様の食事満足度向上のために選択おやつの日と希望おやつの日、喫茶の日、誕生日会を開催し喫食満足度の向上に努めた。
- ・新たに選択食を導入し、自身で食事を選んで頂き、目の前で盛り付けを行う事で喫食満足度の向上を図った。
- ・嚥下機能が低下した利用者様にも食事を楽しんで頂く為、ソフト食の導入を行い、選択食の際に提供を行った。

### 《行事食・麺の日・出前の日・喫茶の日・誕生日会・選択おやつ・希望おやつ実施内容》

- ・行事食：月 1 回(正月は三が日)実施。カード装飾や、旬な食材を使用した季節感の取り入れ、食欲が増すようなきれいな盛り付けを行う等工夫を凝らした。月に 1 度の行事食は利用者様に特に喜んで頂くことが出来た。今後もバリエーションを増やし、更に利用者様のニーズに応えるようにしていく。
- ・麺の日：うどんやそば、ラーメン、冷やし中華、そうめん、スパゲティ、焼きそば等を実施した。
- ・出前の日：鰻…形態に合わせて食べやすい大きさに刻んで提供した。  
寿司…原則として米飯の方は握り寿司、粥の方には刺身、粥、極菜・ペーストの方は刺身を細かく刻んでたたきにして提供した。生ものが苦手な方には、助六での提供も行った。
- ・喫茶の日：毎月第 4 日曜日に実施。サックスボランティアの演奏と共にデザートとコーヒーを提供した。
- ・誕生日会：毎月第 3 水曜日に実施。誕生月の利用者様には手作りケーキを楽しんでいただくことが出来た。
- ・選択おやつ：月に 2 回実施。数種類のおやつを準備し、利用者様 1 人 1 人に食べたいものを選んで頂き、提供を行った。
- ・希望おやつ：月に 2 回実施。利用者様から食べたいおやつを伺い、希望に沿った提供を行った。ユニットで利用者様に手伝っていただきながら作成した事もあり、大変喜ばれていた。

《希望おやつ実施内容》

4月	・チョコレートケーキ ・いちごのチーズムースケーキ	10月	・カボチャプリン ・スイートポテト
5月	・クリームソーダゼリー ・クリームあんみつ	11月	・たこ焼き ・レアチーズケーキ
6月	・クレープ ・バナナパウンドケーキ	12月	・デコレーションプリン ・デコレーションプリン
7月	・ココアシフォンケーキ ・あんみつ	1月	・おしるこ ・大学芋
8月	・あんみつ ・あんみつ	2月	・バナナブレッド ・たこ焼き
9月	・アップルパイ ・スイートポテト	3月	・ホットケーキ ・たこ焼き

《代替食実施状況》

青魚・魚・鯖・鶏・肉・納豆・牛乳・刺激物・ カレー・シチュー・麺・パン・ピザ・ナッツ・生物・エビ	他の料理で対応
井別盛り、あんかけ別盛り、主食おにぎり	盛り付け時に対応

《選択食実施内容》

10月	魚の塩麴焼き、鶏の塩麴焼き 和風ハンバーグ、魚の香味焼き	1月	鶏の照り焼き、魚の照り焼き 豚の味噌漬け焼き、鯖の西京漬け焼き
11月	鶏のごま味噌焼き、魚のごま味噌焼き 魚の香味焼き、鶏の治部煮	2月	鰯の和風ステーキ、タンドリー チキン 親子丼、中華丼
12月	肉団子の黒酢餡かけ、魚の照り焼き 親子丼、中華丼	3月 (ソフト食 開始)	豚肉の生姜焼き、鯖の柚子味噌焼き 肉団子の野菜あんかけ、鯖の味噌煮

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

- ・毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)、食べたい献立についてのご意見をいただいた。
- ・厨房会議を毎月必ず行い、その月に発生した取り組み課題をまとめ、部署全体での問題解決に努めた。業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。
- ・調理ノートの充実化を行い、誰が調理しても同じ出来栄になるように努めた。
- ・嗜好調査アンケート結果からリクエスト献立として積極的に人気メニューの提供を行い、喫食率向上に努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

- ・医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。
- ・多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。

## 6. 医務室利用者健康管理報告

### 【年間目標】

- 1、日々の生活の中での関わりを積極的に持ち、御利用者様一人一人の個別性を把握することで、状態の変化を早期に発見し、早期治療につながるよう努めて行く。  
フロアナース制を導入し、担当フロアの利用者様をより深く把握することで個別性のある看護を提供するよう努めた。また、フロアナース制によって普段の利用者様の生活を観察する機会を増やし、普段と逸脱した状態のときには早期に状態観察を行えるよう努めていった。
- 2、御利用者様ご本人、御利用者の家族にとって最善の援助が出来る様、情報共有をして統一した援助が出来る様、他部署との連携を密に行っていく。  
状態変化時は、各部署報告し相談員とともにご家族様へ連絡を行い、ご家族様の希望を聴取しケアや受診等に反映させていった。また、一人の利用者様を他職種で見ていくために職種間でのチームを意識し情報共有を行い包括的に利用者様と関わられるよう連携をとっていった。

### 〈業務内容〉

- 1、日々の生活の中での関わりを積極的に持ち、御利用者様一人一人の個別性を把握することで、状態の変化を早期に発見し、早期治療につながるよう努めて行く。  
\*基礎疾患からくる症状は日常の正常値を把握しておく事で、悪化時変化に気づけるよう注意深く観察、記録を行う。  
情報収集と情報共有を行い、利用者様の状態を把握しておくことで異常の早期発見に努めた。  
\*普段の生活の中で関わりを持ち、会話、表情、趣向を観察する事で、身体的・精神的変化に注意していく。  
普段から利用者様との関りを大事にし傾聴を行い、利用者様一人ひとりの個別性を学んでいき、普段との違いの際には早期にアプローチできるよう努めた。  
\*必要に応じて観察(体温・脈拍・呼吸・血圧・Spo2等の測定)を行い異常の早期発見に努める。  
状態異常時や異常の報告があった際には状態観察を行い、必要に応じ提携病院と連携し早期発見、早期治療に努めた。  
\*高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や疾病の悪化を未然に防げるよう観察・早期治療に努める。  
日々変わる医療の情報やケアの方法論などを個々人で学び共有することで予備知識を増やし、状態観察時のアセスメント向上に努め疾病の予防に役立てていった。

- 2、御利用者様ご本人、御利用者の家族にとって最善の援助が出来る様、情報共有をして統一した援助が出来る様、医務室、他部署との連携を密に行っていく。  
\*日常業務の中で医務室内での情報共有を行い、日常のケアの方向性を検討する事で統一した看護の提供に努める。  
医務内でショートカンファレンスを行い、状態やケアの状況の共有を図るとともに多角的なアセスメントでより良いケアを提供できるよう努めた。  
\*終末期では御利用者本人、家族の意見を尊重し、ケアや治療方針を医師と相談し決定していく。  
ターミナルケア中の利用者様のQOL向上を図るため他職種と連携し、利用者様とご家族様の思いに沿ったケアが提供できるよう努めた。  
\*状態の変化に応じたケアが出来るよう、他職種間との情報共有を正確かつ敏速に行っていく。  
状態変化時には円滑に情報共有を行い、各部署状態把握に努め適切なケアが提供できるよう努めた。

- (1) 利用者様と日々関わりを持つ中で、状態観察を行い異常の早期発見に努め過ごししやすい環境の提供を行う。
  - ①必要に応じて観察(体温・脈拍・呼吸・血圧・Spo2等の測定)を行い異常の早期発見に努める。
  - ②関わりを持ち観察する事で、身体的・精神的変化に注意していく。
  - ③他職種と連携を図り、利用者様が安定し過ごしやすい生活が維持できるよう変化に注意し速やかな対応を心掛ける。

- ④高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や疾病の悪化を未然に防げるよう観察・早期治療に努める。
- (2) 身体的安定を図る為、感染症予防に努める。
- (3) 終末期を迎えられた方が、最期までその人らしく安らかに過ごせるようなケアの提供に努める。
- (4) 褥瘡形成による身体的、精神的負担を与えず安らかで過ごしやすい生活環境が提供できるよう予防に努める。
- (5) 看護間での情報共有に努めると共に、業務終了後に処置、物品確認を行なうことで円滑な業務の遂行、見落としを防止する。
- ①日常業務の中で看護間での情報共有を行い、意見交換やケアの方向性を検討する事で統一した看護の提供に努める。
- ②業務終了後に物品確認を行う事で、次の業務を円滑に遂行できるようにする。
- ③業務終了後にケアや処置内容の振り返りを行い、業務の見落としの予防に努める。

年間目標 (1) に対し、他職種の連携により、御利用者様の生活のあらゆる場面の状態を観察、情報の共有をし、担当看護職員が日常生活の観察、精神的変化の言動、行動、身体的変化のバイタルサインの異常を早期発見することにより、医療機関への受診、疾病の増悪の予防に努められたのではないかと考える。しかし、全ての御利用者様が異常の早期発見が出来たのではなく、1件急変があった。急変前の小さな変化に気づけるよう今後も努力をしていく

年間目標 (2) に対し、インフルエンザ予防接種施行、感染委員会の取組みの中、面会者へのうがい手洗いマスク着用の徹底やスタンダードプリコーションの施設内研修、環境整備を行い、前年度と変わらず流行感染症発症はなく、また症状があったとしても、施設内での感染拡大には至っていない。今後も職員の知識、技術の向上を目指し指導的立場で取組みを行っていく。

年間目標 (3) に対し、施設内での看取りケアのあり方の理解が不十分であった為、病院に準ずる医療的ケアを行っていた。ターミナルケアで亡くなった方 12 名のほとんどの方が最期まで点滴を施行しており、家族の希望に沿ったケアではあったが、施設での看取りケアという視点からすると方向性が異なっていたと考えられる。今後、外部研修への参加を積極的に取り入れ、医務職員、提携病院医師との共通認識のもと、医療的ケアを行なえるよう努力していく。

年間目標 (4) に対し、褥瘡委員会では ADL、栄養、体重、皮膚の状態などからアセスメントをして発生リスクが高い御利用者様のポジショニング、除圧、体位変換を行っているが、8名の褥瘡発生があった。褥瘡発生後のケア、処置にて完治に至っている事を考えると、高リスク者への援助が問題であったと考えられる。高リスク者への援助の見直しを図っていく必要があり次年度へ繋げていく。

年間目標 (5) に対し、目標に向けて実践を行ってきたが、看護間での情報共有の面での認識の違いがあり上手く伝わっていない状況が何度か見られていた。対策としてノートを活用、反復させ理解の確認等行ってきた。今後も業務の伝達事項を正確に伝えられる様、努めていく。

通院・入院履歴

	通院	入院	退院
4月	8名	0名	0名
5月	9名	0名	0名
6月	14名	0名	0名
7月	15名	2名	0名
8月	13名	1名	1名
9月	5名	0名	1名
10月	4名	1名	0名
11月	4名	1名	0名
12月	10名	2名	2名
1月	4名	1名	1名
2月	7名	3名	0名
3月	9名	1名	2名
	年間通院者数 102名	年間入院者数 12名	年間退院者数 7名

3月31日現在の医療ケア介入必要者

胃瘻からの経管栄養実施者	5名
点滴施行者	0名
血糖測定者	0名
在宅酸素使用者数	0名
常時、口腔・鼻腔内からの喀痰吸引が必要となる利用者	0名
褥瘡処置施行者	2名
褥瘡以外の皮膚処理施行者	1名
ターミナルケア対応者	8名
合計	16名

2019年度死亡退所者

入院先での死亡者	3名
施設内での死亡者	3名
施設内ターミナルケア対応 死亡者	12名
合計	18名

## 7. リハビリテーション報告

### (1) 総括

2019年度のリハビリにおいて、利用者様の笑顔を引出し、積極的にリハビリを行っていただけるように努めました。また利用者様の既往歴・現病歴の把握、他職種との情報共有などを行い、より安全にリハビリを行えるようにしました。施設顧問医師、理学療法士の指導の下、利用者様の心身の状態、施設内での生活におけるニーズなどを考慮し、個別的で実効性のある訓練計画の策定を目指しました。

### (2) 実施事項

- ①理学療法士による評価・機能訓練計画書の作成・生活リハビリの作成
- ②四肢関節可動域訓練
- ③基本動作訓練（立ち上がり、座位保持など）
- ④筋力訓練
- ⑤体位交換や除圧方法の検討
- ⑥車椅子の整備
- ⑦利用者様とのコミュニケーション
- ⑧靴の選定
- ⑨センサー・エアーマットの管理

### (3) 結果

利用者様とのコミュニケーションをたくさん行う事で、より良い関係性を築け、リハビリ中の笑顔が多く見られるようになりました。

また、他部署とのコミュニケーションも増え、連携もより密に行えるようになりました。

その日の状態に合わせたリハビリを行う事で利用者様も喜ばれていました。

#### ・パーキンソン病のある方の例

日により動きにムラがあり、動きにくくなってしまうとご本人の気持ちが落ち込んでしまうことがありました。コミュニケーションをより多く行い、その日の状態を聞き出すことで身体状況に合わせたリハビリを行いました。動きにくい際は関節可動域訓練、筋肉への刺激を与えることで動きやすくなり、動きやすい時は歩行訓練やボール投げなど身体を動かすように努めました。その日に合わせたリハビリを行えることで利用者様の笑顔も次第に増え、表情も明るくなりました。今では日によるムラも少なくなってきた為、今後も継続して行っていこうと思います。

#### ・コミュニケーションを行う事でいい関係が築けた例

ある利用者様は爪を切る際に抵抗もあり、爪が伸びていました。リハビリを通じて利用者様とお話を行い、より良い関係が築け、抵抗もなく爪を切ることが出来ました。その利用者様からはまた切ってねとお願いもされるようになりました。

これも、より良い関係性を築けたからこそ抵抗もなく行えたのだと思います。

### (4) 課題

今後も他部署との連携を深め、利用者様一人一人に合わせたリハビリを行っていくとともに、より良い関係性を築き上げていく。

利用者様の笑顔を一人でも多く引出し、楽しく生活していける環境作りに努めていく。

さらには、介護職員、看護職員と体位交換やポジショニング、シーティング等の検討を行い、利用者様に安楽な姿勢が保持出来るようにしていく。安楽な姿勢により体圧の除圧を行い、褥瘡の発生予防に努める。褥瘡発生時には早期改善できるように他部署の連携をより密にしていく。

## 8. 生活相談員・介護支援専門員 事業報告

### 1、利用者様支援、多職種連携の調整役

福陽会の基本理念である「人がその人らしく生活できる環境づくり」を常に考えながら、各階に相談員を配置して、日頃から利用者様へのご様子や状態確認の声掛けや観察を行い、介護現場職員をはじめ、医務・リハビリ・栄養等各部署、また、ご家族からも利用者様の情報を集めて各部署へ発信し、お一人おひとり利用者様の環境を整えていくよう努めた。生活相談員がユニット内を回り、利用者様へ声掛けを行い、また職員との情報共有をすることで利用者様のご様子を確認して、ご本人のニーズを把握。その情報を多職種でアプローチできるように調整を行い、解決できるよう支援を行った。また、利用者様の生活への良い点や悩みや要望等の意見を聞く機会を設けるために、利用者懇談会を適宜実施予定だったが、中々予定通りに進まず、滞りがちだったため、次年度からは毎月第一火曜日と決めて進めて行くように計画を立てた。各部署の情報共有の流れや形が整い、次年度も生活相談員が調整役となり、情報の伝達・共有を迅速かつ正確に行い、利用者様へのチームケアができるように心がけていく。また、ご利用者様の医療面での状態に関するご家族様への連絡は、医務とともに電話連絡をし、医務より話をさせていただいているが、職種間でより多くの連携の必要性を感じた。今後も『報告・連絡・相談』を多職種間で徹底をして、より良い多職種連携のシステムを作っていく。

### 2、ご家族、施設間調整

施設と利用者様ご家族との橋渡し役として利用者様のご様子を都度お伝えし、ご家族との関係調整役として動いたことで、それぞれのご家族より安心して利用者様を任せていただけた。また、信頼関係も築けており、施設行事に参加して下さるご家族や、ご本人の状態変化時等には面会に来てくださり、病院等への付き添いにも行って下さるご家族が大多数おり、ご家族と協力してご本人の生活を支援できた。今後もご家族への連絡等をしっかり行い、安心していただけるよう努めていく。医療面でのご家族への連絡は医務より行う体制をとっているため、今後も細かく連携を行っていく。

### 3、利用者様の入所前、入所時の支援について

入所を希望する方が相談にいらした時に、その方にとって当施設が提供するサービスを本当に必要としている方なのかどうか、まずその人のニーズは何かを見極めて情報提供を行った。また、利用者様入所時にはご本人、ご家族より聞き取りを行い、これまでの生活歴、趣味、嗜好等々ご本人の情報を収集し、各部署で共有してケアができるようにした。利用者様が施設へ入所する前の事前面接を近隣の場合は徐々に行うことができ、今後も可能な限り、相談員と多職種にて事前面接を実施していき、入所前の情報共有を進めていく。

### 4、介護職員へのスーパーバイズについて

各ユニットリーダーの現場指導とは別に、各フロアの相談員が職員のスーパーバイザーとなり、フロア・ユニットをラウンドする際等に利用者様に対するケアや、対人への態度等の確認を行い、指導、評価を行った。職員の職場環境の変化や日頃の様子等にも目を向けて、ストレスやメンタルの面での職員の相談役としても担えた。

### 5、営業について

営業活動を通して、近隣の事業所との関係性も強まっているように感じる。また『西多摩特養ガイド』の設立もあり、都区内からの問い合わせや見学、申し込みも増えてきて、対応させていただいている。資料請求の方に対しては、分かりやすいように料金表に一言付け加え、施設見学などは随時承り、施設をアピールすることに努めた。その結果、「色々なところを問い合わせたけれど、ここまでやってくれた施設はなかった。」等の声をご家族よりいただき、好評な様子だった。今後もひと手間を惜しまずに、ご家族に寄り添った相談を行って、施設をアピールしていきたい。

## 6、入所時面接について

入所時に面接を行い、生活環境を聞き取り把握することで、リロケーションダメージを最小限に抑え、施設での生活に移行できるように、支援を続けた。24時間シート作成も継続して行い、注意点などを指摘し、他職種に発信して情報を共有出来るように努め、新規ご利用者様の支援をしていった。入所時に把握しきれない事もあるため、入所後も継続して情報収集を行い、その人にあった支援を出来るように努めた。

## 7、ケアプラン作成について

聞き取りを行った情報を元に、施設サービス計画書を暫定に作成し、ご家族・ご本人に説明・同意をしていただいた。そして1か月後に初回カンファレンスを開催し、その人らしい生活を送ることが出来るよう、新規プランを作成した。またADLの変化が著明に表れた時には、緊急カンファレンスを開催し、状態に応じたプランを作成すると共に支援できるように努めた。また、目標に関してはより具体的な言葉で、その利用者様のことを考えながら作成するよう努めた。

新規プランに関しては、ADLに変化がなかった場合には3か月、更新に関しては6か月と設定。ADLに変化があった場合には期間は3か月とするも、その都度様子を観察し作成した。

ターミナルケアに入った方に関しては、状況把握に努め3か月に1度の見直しを行い、計画書を作成することになった。

## 8、モニタリングについて

1か月ごとに支援経過としてモニタリングを行い、ご利用者様の状態を把握していた。介護職員は『ケアカルテ』の中にある支援経過に記入をしている。また介護支援専門員は『ケアカルテ』のモニタリング用紙に3か月後・6か月後の2回行い、項目に合わせて観察事項を記入して、継続するか変更するかの資料とした。またターミナルケアの方については、3か月ごとのモニタリングを行い、より細かに観察を行っていった。

## 9、ケース会議について

毎月第2水曜日・第3火曜日・第4火曜日の午後に開催予定とし、ケース会議を行った。職種間調整が難しい場合には、介護支援専門員による聞き取りを行ったが、基本的には調整をして、ケース会議を開催。職種間の情報共有にて、利用者様の状況を把握。プラン作成に繋げた。またケース会議のコーディネート・進行して、各職種の専門性を尊重するようにまとめるよう努めた。今後も多職種で情報を共有して、ケアに繋げていきたい。

## 10、介護職員へのスーパービジョンの展開

施設サービス計画書についての内部研修や、モニタリング時に介護職員に対し、施設サービス計画書の必要性についてスーパービジョンを展開した。記録の書き方や観察の注意点などを都度介護職員に話をしていき、利用者のニーズに沿えるように注意を払っていった。

今後も引き続きスーパービジョンの展開を図り、意識を向上していくよう努めて行きたい。

## 11、相談員・ケアマネの分業について

後半より話し合っていた分業を開始し、今まで以上にユニットに出向き、食事介助やレクリエーション等、介護に関わる時間が増えてきた。介護に関わる事で、利用者様のニーズや、ケアに対しての問題点等がよりわかるようになってきた。そして利用者様だけでなく、業務に対しての相談、検討等がよりしやすくなった。今後も多くの関わりを持つことで、利用者様との信頼関係、また多職種間の連携や職員同士の信頼関係を強めて、より良い施設づくりを目指して行きたい。



## 9. クラブ活動実績報告

### ① クラブ活動について

出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声掛けに努め、楽しいひと時を過ごしていただけたと思います。特養入所の利用者だけではなく、ショートステイの利用者の方にも声掛けし、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。

以前に行なっていた趣味・嗜好を継続して行えるよう様々な状況を考慮し、利用者の希望に出来るだけ添うように、講師の先生方とも活動内容を相談しながら行ないました。

又、ご自身の得意とする力を発揮していただき、自信を持って積極的に参加して取り組んでいただけるよう支援しました。参加してみたいと興味を持った活動には参加していただき、新たな楽しみをみつけていただけるよう参加への声掛けに努めました。クラブ活動に参加することで、季節や環境の変化を感じ、他者との交流や講師の先生方との交流を図りながら楽しい時間を過ごしていただけたと思います。

継続してクラブ活動に参加されている方は、「活動日が楽しみ」と言う言葉も聞かれ、クラブ活動の重要性を感じました。

### ② クラブ活動名と講師名

クラブ名	講師名
華道	根守 和子先生
茶道	大野先生・森田先生
書道	石井 亮子先生
音楽	澤田 康次先生

華道クラブ活動報告						
活動回数	14回	参加延人数	298名	平均参加人数	21名	担当：井上
【活動報告】						
1. 第2・第4金曜日に活動						
2. 季節ごとに咲く花を楽しみながら季節感を感じていただけた。						
3. 活動を通して利用者間での助け合いや、他の方の生けた作品を見ながら交流をもつことが出来た。又、先生にご指導いただきながら先生とのコミュニケーションを図る事が出来た。施設の文化祭や地域の文化祭に出展していただく事で喜びと励みを感じていただけたと思う。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	季節の花を生ける		10月	季節の花・施設の文化祭用の作品		
5月	季節の生け花・フラワーアレンジメント		11月	地域の文化祭に出品・季節の花を生ける		
6月	季節の花を生ける		12月	フラワーアレンジメント・お正月の生け花		
7月	〃		1月	活動なし		
8月	活動なし		2月	感染症対応の為、活動なし		
9月	季節の花を生ける		3月	〃		
職員担当フロア：3F西						

茶道クラブ活動報告						
活動回数	19回	参加延人数	201名	平均参加人数	12名	担当：柴田
【活動報告】						
1. 第2・第4水曜日に活動						
2. 先生のご指導のもと、参加者がお手前をし、お抹茶の味と、香りを楽しんでいただけた。						
3. お手前で次の段階に進める方は工程を増やして行った。						
4. お茶と季節感のある和菓子をいただきながら、和やかで穏やかな時間を過ごしていただく事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	先生のご指導のもとお手前をする		10月	先生のご指導のもとお手前をする		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	感染症対応の為、活動1回		
9月	〃		3月	感染症対応の為、活動なし		
職員担当フロア：3F東						

書道クラブ活動報告						
活動回数	22回	参加延人数	259名	平均参加人数	12名	担当：清水
【活動報告】						
1. 第1・第3土曜日に活動						
2. 清書をした作品を参加者にみていただき、前回の清書した作品との講評を行いました。徐々に上達される喜びと、励ましの言葉を掛け合いながら交流を図ることが出来た。						
3. 施設と地域の文化祭に出品し外部の方に見ていただく事で、今後の喜びと励みになった。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	前回の課題練習と新しい課題選び		10月	文化祭に向けての仮名文字練習・総合評価		
5月	お手本をもとに前回の課題練習・清書		11月	作品と写真撮影・仮名文字練習		
6月	お手本をもとに課題練習		12月	仮名文字練習・賀正の課題選びと練習		
7月	お手本をもとに課題練習（1回の活動）		1月	賀正の清書・漢字2文字の課題練習		
8月	お手本をもとに課題練習		2月	漢字2文字の課題練習		
9月	文化祭に向けての課題練習		3月	感染症対応の為、活動なし		
職員担当フロア：2F東						

音楽クラブ活動報告						
活動回数	12回	参加延人数	427名	平均参加人数	36名	担当：清水
<b>【活動報告】</b> 1. 土曜日の午後 1～2回/月 2. 発声練習で、大きな声を出す事により、腹筋や口腔体操にもなり、自然に声を出すことが出来た。 3. 馴染みの有る曲や、初めて唄う曲・懐かしい曲等、様々な思い出の有る歌を皆さんと楽しく歌う事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	発声練習・今までの課題曲の復習		10月	発声練習・今までの課題曲の復習（1回）		
5月	発声練習・新曲・今までの課題曲復習		11月	先生のご都合により活動休止		
6月	発声練習・今までの課題曲の復習		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロア：2F西						

※澤田先生が体調を崩されたため、11月より活動休止となりました。

#### フラサークル

・活動日は不定期で行った。自由参加で1回の活動で15名～20名程の参加でした。  
 上肢のリハビリを兼ねて、ハワイアン風の曲に合わせてハンドモーションの意味を説明しながら歌を唄いながら楽しく踊っていただけました。参加者にはレイを掛けてハワイに居る雰囲気を感じていただきました。

クラブ活動費実績：775,046円

## 10. 年間行事実施報告

### 第3 サンシャインビル

#### 平成30年度「年間行事計画実施表」

日時	曜日	行事名	内容
4月20日	土	観桜会	4階テラスにて浪曲漫才、唐獅子太鼓の余興を観ながら模擬店食を飲食し楽しまれる。
5月9日	木	運動会	地域交流室にてユニットごとに紅白チームに分け、紅白対抗競技を行う。
7月20日	土	納涼祭	地域交流室、屋外スペースにてウクレレ演奏、よさこい、盆踊りを楽しまれながら、模擬店食を飲食する。
8月7日	水	夕涼み会	屋外スペースにて利用者、職員のふれいあいの場とし花火をして楽しむ。
9月14日	土	敬老会	地域交流室にて式典、大正琴演奏を楽しむ。各ユニットで祝膳。
9月29日	日	八幡神社例大祭	地域イベントに参加し地域との交流が行うことが出来た。
10月5日	土	日の出町敬老会	日の出町の敬老会に参加。
11月2日	土	文化祭	クラブ作品展示、コーラス披露、落語、マジックショー、茶道を楽しみながら、模擬店食を飲食する。
11月9日	土	日の出町文化祭	日の出町の文化祭に参加。
12月中		クリスマス会	各ユニットで計画しクリスマス会を行い楽しむ。
1月2日	木	元旦式典	地域交流室にて式典。各ユニットで祝膳。
1月1・2・3日		初詣	八幡神社、熊川神社に初詣に行く。
1月8日	水	餅つき	各ユニットに周り利用者の方に餅つきをして頂き楽しむ。
2月3日	月	豆まき	各ユニットに鬼が周り豆まきを行い楽しむ。各ユニットで祝膳。
3月4日	水	ひな祭り	紙芝居、歌を歌い楽しむ。各ユニットで祝膳。

行事費実績：1,046,683円

## 11. 事務費・固定資産物品報告

### 事務費報告

○事務消耗品費：4,962,083円  
 ○通信運搬費：848,822円  
 ○手数料：9,651,123円  
 ○土地・建物賃借料：60,000円  
 ○渉外費：96,377円

○印刷製本費：196,694円  
 ○広報費：1,396,168円  
 ○保険料：486,196円  
 ○租税公課：187,400円  
 ○諸会費：204,600円

○修繕費：1,080,361円  
 ○業務委託費：7,392,215円  
 ○賃借料：3,826,681円  
 ○保守料：3,599,356円  
 ○雑費：1,368,433円

## 12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告

### 自治体への事故報告

	転倒	転落	その他	計
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月	1			1
10月				
11月				
12月	1			1
1月				
2月				
3月	2		1	3
合計	4		1	5

### アクシデント報告

	転倒・転落	誤飲・誤食	誤薬・未薬	その他	計
4月	2				2
5月	2		1	2	5
6月	4			7	11
7月	7			11	18
8月	3			2	5
9月	4		1	8	13
10月	6			4	10
11月	3		1	5	9
12月	5			3	8
11月	5		1	8	14
2月	2			10	12
3月	10	1		7	18
合計	53	1	4	67	125

### ヒヤリハット報告

4月	9
5月	9
6月	15
7月	18
8月	9
9月	18
10月	10
11月	14
12月	9
11月	26
2月	15
3月	19
合計	171

### 13. 職員研修報告

開催月	ユニット単位対象 研修内容	担当者
5月	食事について	木村公紀
7月	入浴介助について	三好賢
9月	排泄介助について	リブドゥ
12月	口腔ケアについて	猪野香織
1月	排泄介助について	宮田聖洋
3月	接遇について	篠崎哲一

#### 【外部研修】

研修日	研修内容	参加者
5月17日	2019年増田屋展示会 学会分類2013 徹底解説 食べられないから食べられるを叶えるために	木村公紀
6月24日	食品衛生実務講習会A	木村公紀
6月28日	西多摩保健所秋川地区 特定給食研究会	木村公紀
7月6・7日	第5回日本栄養士会災害支援チーム東京 (JDA-DAT/TOKYO) スタッフ育成・スキルアップ研修	木村公紀
7月23日	介護職員等特定処遇改善加算について	小澤俊太郎
9月20日	ストレスチェック実施者養成研修	久保山昭
10月17日	日本人の食事摂取基準(2020年版)講演会	木村公紀
10月24日	痛みやゆがみを楽にする シーティング講座	谷合祥悟
10月28日	サービスマナー研修	宮田聖洋
11月18日	サービスマナー研修	宮田聖洋
11月23日	第15回日本シーティングシンポジウム	谷合祥悟
12月9日	サービスマナー研修	宮田聖洋
12月19日	介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)	上沖早紀

#### 【内部研修】

開催月	研修内容	講師
随時	新人職員研修	
4月	褥瘡について	金坂亘晃
5月	ターミナルケア	栗野恵美
6月	事故防止安全対策・緊急時の対応について	岩崎慎也
7月	感染症について	小篠俊明
8月	ケアプランについて	管野哲也
9月	身体拘束	堤竜司
10月	感染症の勉強会	久保山昭
11月	高齢者虐待防止について	笹原淑子
12月	認知症(BPSD)	齋藤岬
1月	事故防止について	大谷俊光
2月	プライバシーについて	中村明生
3月	メンタルヘルス	久保山昭

※毎月 福陽会理念に対する研修を行う

旅費・研修費実績：167,440円

#### 14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告

2019年度もボランティアや慰問の方々を社会資源として、多くの方々に来て頂けた。利用者様もボランティアや慰問の方が来られる事を楽しみにされており、「楽しかった、また来てほしい」等の声が多く聞かれている。昨年に引き続き、日の出幼稚園、あきる野学園の慰問も大好評であり、涙を流して喜ばれていた。地域交流室の開放についても昨年同様、日の出町ニュースを語る会や卓球連盟などのサークル活動の場として地域の方々に利用して頂いた。

今年度後半より新型コロナウイルスの影響でボランティア、慰問、行事等が中止となっている。

- ・2019年度新規ボランティア活動登録者  
久保田恵美子様（茶道）  
内野滝良様（アコーディオン伴奏）

#### 15. 消防訓練実施結果

2019年度は、震災への対応も含めた避難訓練に重点をおく訓練を行った。6月の自衛消防訓練技術審査会では、準優勝という成績を収めることができた。

また、消防訓練参加者チェック表を作成し、一人でも多くの職員に参加してもらうようにしたことにより、防災に対する意識づけができた。

##### 【2019年度訓練内容】

実施日	訓練種別	内容
4月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119番通報要領訓練 参加者全員が消火器を使用した訓練を行った
5月	自衛消防訓練	秋川消防署主催の自衛消防審査会に参加するための訓練 非常に熱心に訓練に取り組んだ
6月	自衛消防訓練	同上 消防審査会にて準優勝をとる事が出来た
7月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
8月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った
9月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 日勤帯の訓練、指導を行った
10月	その他訓練	地震による電気設備等の使用不可を想定し、非常食を職員で調理した。 非常食等の保管場所の確認ができた。
11月	避難訓練 (日勤帯想定)	厨房からの出火を想定した一連の訓練 厨房職員にも参加し、訓練に取り組んだ
12月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 総合訓練を重ね、実践に備えた
1月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
2月	避難訓練 (夜勤帯想定)	夜間帯の火災を想定した一連の訓練 担架等を利用した移動訓練を行った。
3月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 消火器・消火栓の使用方法を確認した。

## 16. ショートステイ事業報告

ショートステイの受け入れに関して、今年度も前年度同様、施設独自の売りを作って営業活動に励んだ。土日・祝日問わずに受け入れ態勢を整え、夕食後の送迎、事前にご自宅へ訪問して面接・契約などを行い、ご家族様の負担軽減を図るように努めた。その結果、ご利用者様・ご家族様・担当ケアマネジャーより利用しやすいなどの声を多くいただいた。営業活動等で色々な事業所との顔つなぎも出来て、今まで関わった事のない事業所からの問い合わせや、新規利用も増えてきたように感じている。しかし稼働が中々伸びていないのが現状である。繰り返し利用して下さる利用者様の獲得は出来ているが、近隣の特養や老健等多くあるため、ショートステイ専門10床を埋めていく事は難しい状況である。そのため今後も施設の『使いやすさ=売り』をアピールできるよう居宅介護支援事業所等への営業活動を増やし、ケアマネジャーとのつながり・連携を強めて行きたい。

ショートステイ利用後、ご利用者様やそのご家族様が施設内の生活を気に入られ、特養入所枠へ申し込みをされ、数日単位より週単位で利用される方も多くいるため、特養入所を見据えたご利用者様のショートステイの受け入れも推進し、稼働率のアップを図って行きたい。

### 2019年度稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月
54.3%	51.6%	59.3%	71.9%	77.4%	55.3%

10月	11月	12月	1月	2月	3月
50.9%	62%	74.1%	69.%	79.7%	58.7%

介護報酬収入等年間実績 32,426,126円